



人事院公務員研修所 課長補佐級リーダーシップ研修について

募集人数：研修員25名程度、若手研究者4名程度（少数精鋭！）

期間：令和7年8月20日～令和8年1月20日（各月、1日～3日間の研修（合宿又は通勤）を計14日間実施）

場所：合宿（公務員研修所@埼玉県入間市）、通勤（西ヶ原研修合同庁舎@東京都北区）

お問合せ先：人事院公務員研修所教務第一課

TEL 04-2934-1292

Email kyomu-1@jinji.go.jp

本研修の目的

各府省の課長補佐級の職員で、将来、本府省幹部職員として行政運営の中核を担うことが期待される者について、国民全体の奉仕者としての使命感・責任感、社会情勢の変化に対応し新たな行政運営をリードする意志と能力、国際社会におけるプレゼンスの発揮に資する国際感覚等の向上を図るとともに、研修員相互の理解と信頼を深める。

本研修の特徴

- ・研修員のこれまでの実務経験を基礎に、職業観、国家観、社会観、さらには人生観に至るまで、社会の在り方と自分自身を総合的に俯瞰するプログラム。
- ・約25名の少数精鋭で、6セッション計14日間のカリキュラムを6か月にわたり行い、研修での学びを実務にも活かす(20人超の講師(元幹部行政官、学者、経営者、町長等)、起業家・民間企業勤務者等12人、若手研究者4人(アカデミック・パートナー)が本研修に参画)。
- ・様々なリーダーシップ像に触れ、共同研究等のカリキュラムを通じて日本の課題を検討し、新たな知見に出会って対話を積み重ねながら、参加者が互いに学び合う参加型カリキュラム

カリキュラムの構成

国民全体の奉仕者としての使命と
職責について考えるための科目

「行政の在り方」
「個別政策研究」
「個人プレゼン
テーション」

「行政現場学習」

公共政策の在り方を多角的に
検証し考えるための科目

「共同研究」（アカデミック・パートナー参画）
「東大EMP講義、EMP修了生との連携カリ
キュラム」
「関連講義」

公正な公務運営について
学ぶための科目

「リーダーシップを考える」
「マネジメント」

令和7年度の日程と各回テーマ(予定)

8月20日~22日

合宿① インTRODクシヨソ

9月4日

オンライン 思考の枠を広げる

10月6日~8日

現場学習 地方自治体の取組を知り、職務と人生の重なりを考える@北海道上士幌町

11月5日~7日

通勤① リーダーシップを考える

12月3日~5日

合宿② 広く社会を俯瞰して

1月20日

通勤② 総括

参考：令和6年度研修風景



講義風景



現場訪問先(島根県海士町)で車座対話



哲学対話



令和7年度現場訪問先(北海道上士幌町)

参考：令和6年度研修風景



(参考)

令和6年度リーダーシップ研修 カリキュラムの分類、時間数、講師等一覧

分類	研修科目	時間	講義名(講師)等
国民全体の奉仕者としての使命と職責について考えるための科目	行政・行政官の在り方に関する講義	10時間15分	リーダーシップを考える(川本裕子人事院総裁) 信頼される組織を創るために(村木厚子元厚生労働事務次官) 行政官としての働き方(大武健一郎元国税庁長官) 激動の国際情勢と日本(兼原信克同志社大学法学部特別客員教授・元内閣官房副長官補) 政官関係・官民関係(清水唯一朗慶應義塾大学総合政策学部教授、若手起業家4人) ※前半は清水教授からの講義、後半は若手起業家との意見交換を実施
	個別政策研究	6時間30分	※各々が所属する組織の政策課題等を発表し、相互に討議を実施
	個人プレゼンテーション	2時間00分	※研修の総括として、これまでの公務員生活を振り返り、研修で経験や得られた教訓を言語化するとともに、課長級先輩職員(チューター)を交えて研修員同士で共有・意見交換
公共政策の在り方を多角的に検証し考えるための科目	共同研究班別討議	14時間00分	※東京大学EMPの協力により、若手研究者4人が「アカデミック・パートナー」として、共同研究をはじめ研修に参加
	中間討議 全体発表	2時間30分 3時間15分	※東京大学EMP修了生(民間企業勤務者、起業家)8人との討議を実施
	東京大学EMPとの連携プログラム	6時間15分	自己紹介、探求的課題設定、哲学対話(梶谷真司東京大学大学院総合文化研究科教授) 人類の住む宇宙(岡村定矩東京大学名誉教授・東京大学EMPエグゼクティブ・ディレクター) 人文・社会科学の俯瞰(小野塚知二東京大学特任教授/名誉教授・東京大学EMPコチエア) アカデミアの知をどう活用するか(高梨直紘・東大EMP特任准教授)

(注) 東京大学EMP:「東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム」。優れた課題設定力を備える者こそが次代を切り拓くリーダーとなるとの考えの下、2008年に社会人を対象として開講した教育プログラム。東京大学が持つさまざまな分野における最先端の知識を自らのものとし、さらに、深い智慧や教養と实际的で柔軟な実行力を併せ持つ、高い総合能力を持った人材の育成を目指す。

令和6年度リーダーシップ研修 カリキュラムの分類、時間数、講師等一覧

公正な公務運営について学ぶための科目	リーダーシップ・地方創生等に関する講義	16時間45分	持続可能な社会に向けて（阿部治立教大学名誉教授・公益社団法人・日本環境教育フォーラム理事長） 海士町で”私”は何を探求したいのか？（阿部裕志(株)風と土と代表取締役） 人口減少社会の実相と「人口戦略」－何が起きているのか、何をめざすのか－（金子隆一明治大学特任教授・元国立社会保障・人口問題研究所副所長） マインドフルネスとマネジメント（ジェレミー・ハンター P・F・ドラッカー大学院准教授） 正解なきVUCA時代を切り拓く決断力とリーダーシップ（小路明善アサヒグループホールディングス会長取締役会長兼取締役会議長・公務員研修所顧問） 『論語』に学ぶリーダーシップ（守屋淳 作家） 「問いかけ」の技術とリーダーシップ（留岡一美POLARIS Partners株式会社代表取締役） 企業現場訪問、講義（(株)井口一世 井口一世代表取締役社長）
	行政現場学習	16時間55分	※島根県海士町を訪問し、同町町長等からの講義、町役場職員との意見交換、地方創生の取組を視察するとともに、非日常の環境での内省と地域の方々も交えた対話等を通じ、自己を深く認知する。
	オリエンテーション等	4時間30分	
	計14日間	82時間55分	20人超の講師（元幹部行政官、学者、経営者、町長等）、起業家・民間企業勤務者等12人、研究者4人が本研修に参画

(参考)

研修員の声

・通常業務では触れることができない話を聞き、環境に身を置くことができた。その中で、自分がいかに狭い視野で物事を見ていたのか、漫然と日々を過ごしていたのか感じられた。意識的に視野を広げ、リフレッシュし、より深く考えるヒントを得ることができた気がする。また、他の研修員とのつながりを築くことができたことも大きな成果。どのようにしてより良い関係を築くことができるのか学ぶことができた。

・特定の分野にとらわれずに知的関心を広げることができたし、課題に対するアプローチについて、様々な視座を学べた。また、各省庁からの優秀な個性ある職員との議論に刺激を受けた。

・「自分の知らない考え方や価値観を得ること。注目しなかった世界や見えていない世界を知ること」を研修への成果と設定したところ、各発表や講義での研修員の皆様の意見に耳を傾けることによって、自己と異なった価値観

や考え方を理解することができました。

・自分自身の将来像を具体化したいと考えていたが、研修を通じて幅広いインプットを得たことで、簡単に固めることではなく今後も継続的に考えを深めていくべきものなのだと思ふと自然と腹落ちし、期待を越えた効果が得られたと思う。

・アカデミック・パートナーの参加はとても良かったです。行政官はアカデミックの専門的知見を定期的にアップデートする必要性や、行政官の視点・情報関心をアカデミックに伝達し、多くのアドバイスを得る必要性を感じました。

参考「来年度、アカデミック・パートナーが参加することに対する意見を選択して下さい。」

継続の方がよい	92%
どちらでもよい	4%
継続しなくてもよい	4%

若手研究者の声

・あまりにも有意義すぎて、もっと多くの研究者に勧めたいくらいである。アカデミックの人間として得られることもあったし、省庁の方も好意的に受け止めてくれているという手ごたえがあった。

・具体的・個別的な政策案ではなく、研修員が普段は意識することが少ない、その政策案を持つに至った背後にある課題・思想を明確にする上で、研究者の経験が役立ったと思う。

・十分に役割を果たせたか自信はありませんが、個人的には優秀な同世代の人たちが熱意とやさしさをもって業務にあたっていることが知れただけでも非常によかったです。

・この研修を通じて、研修員の方々と交流を深められたことが大きな財産となりました。研修初期の頃はとても緊張していましたが、研修員の皆さまが、こちらが発言しやすい雰囲気をつくってくれました。